

◆「ムツゴロウのラブソニー」飯能公演の事務局メンバーとして参加させてもらいました。「憲法」「諫早湾の現状」「自然環境問題」を、ミュージカルという手段で、表現できるのだからという当初抱いた疑問は、みごとに消えさりました。来場者の多くから寄せられた感想文に、感動と共に、環境に対する責任と人間の行いの愚かさについて書かれていたことに、作品の意図していたことが十分に伝わったのだなど、主催者として嬉しい限りです。

◆諫早湾で起きている問題は、遠い長崎の事だけではありません、私達のごく身近な自然が次々に失われていくことに對して、もっと敏感に、もっと正しく、見極める力を持って行動をしたいものです。自然の循環に合わせた暮らし方を取り戻す為にも、「諦めてしまふこと」と「見てみぬふりをする」とはしたくないですね。◆いろいろな形で、御協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

I LOVE 憲法はんのう事務局局長
『彼は、森の中に住んでいる』



天覧山にクモを採って

東京蜘蛛談話会

平松毅久

クモ学と天覧山の縁は深く一九三六年に東亜蜘蛛学会(現日本蜘蛛学会)の第一回採集観察会が行われている。東京蜘蛛談話会では今年十数年ぶりに天覧山で採集観察会を行うことになった。前回一九八一年には年間二九科一五〇種が記録されている。今回五月一七日に行われた観察会には珍種こそ出なかったものの、約九〇種が記録された。小型のハラダカツクネグモや最近少なくなつたコガネグモの幼体もいて、今後の観察会が楽しみである。低山ながら比較的環境が多様なせいだろう。また事前の下見で守る会の皆様と一緒したおかげでオオタカが見られ、都市近郊に残された自然を保護する必要性を感じた。

最後に東京蜘蛛談話会はクモに興味のある人なら誰でも歓迎です。一度観察会に参加してみませんか。次回以降の日程は七月一二日・一〇月一八日・二月二一日 飯能駅北口階段下一〇時集合(雨天決行)／詳細は〇四九二一三三二八七九二 平松まで

会員募集集中!

現在、天覧山・多峯主山の北東地域には、西武鉄道による巨大団地計画があります。「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、計画の発表以後、署名運動や、県や市に対する働きかけ、自然観察会、会報「やませみ」の発行などを通してこの地域の自然を残すことを訴えてきました。この団地計画に対する県の許可は、まだ下りていません。緑豊かなふるさとを守るのは、私たちひとりひとりの市民です。まだ間に合います、どうぞあなたも参加して下さい。

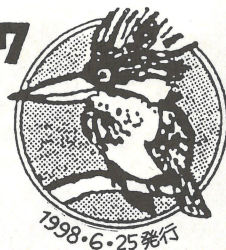
会費や手続きなど、詳しいことは事務局までお問い合わせ下さい。また「やませみ」やお知らせなどは、谷口眼科・銀河堂・Café裏にも置いてあります。



やませみ

NUMBER・17

発行日 / 1998年6月25日 編集・発行 / 天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局 / 浅野正敏 埼玉県飯能市柳町18-17 ☎0429-74-1691 小嶋晶子 ☎0429-72-4602
編集局 / 早瀬あかね ☎0429-77-1890 (FAX兼) イラスト・レイアウト / 石岡卓由海
郵便振替口座 / 名称「天覧山・多峯主山の自然を守る会」 番号00580-9-16342



天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

やませみ

きのうの雨が粒にふって

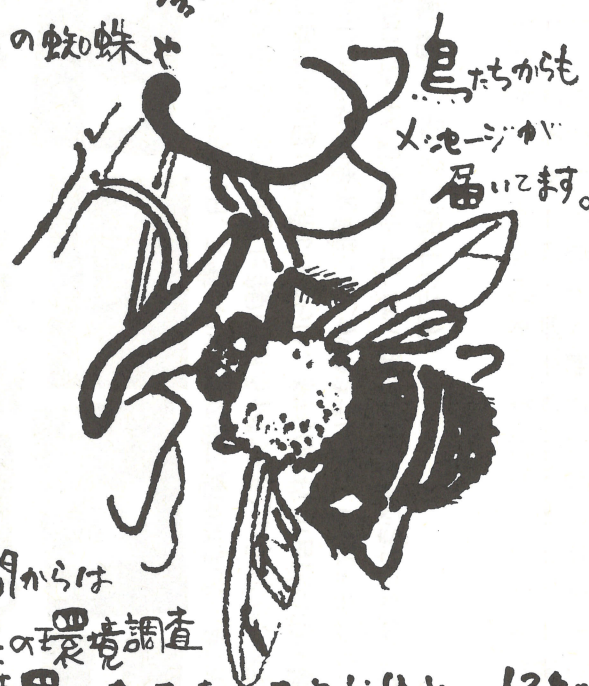
蜘蛛の巣を一粒一粒飾ります。

雨もいいものですね。

さ、今回は里山おりの感想です。

ご協力・ご参加ありがとうございました。

山の蜘蛛や



人間からは

県環境調査

の結果がまとまった。

お知らせと13年間

高尾の山を守ってきた「守る会」の方のお話し

の報告、それに犬との出会いが

自然との一体感を得ることになったというお話しなどが

届いています。

雨上がり、土からたちのぼる

湿った空気を胸いっぱい吸いこみに出かけましょうか...

県の環境調査の結果が まとまりました。



天 覧山・多峯主山を中心とした「飯能県民休養地構想」のための環境調査が、このほど県自然保護課によってまとめられました。

調査内容は、A 地形・水系等の地学的環境、B 動植物に関する生物的環境、C 歴史・文化財・景観等の社会的環境とに分類され、一七五項目にわたる緻密な調査資料となっています。その報告の中では、市街地に隣接していること、歴史・文化と共に市民・県民に多く親しまれていること、湧水を水源とした四つの沢水系で成り立っていること、といったこの場所の特性が示されています。加えて動植物調査によって、自然の豊かさも明らかにされています。

今年度はこの調査報告書を基にして、県及び市の行政内部において委員会なり協議会を設け「飯能県民休養地」の構想概要を策定していくとの事でした。特に注目すべきは、休養地の運営・管理は市が行うとなつていますが、同時に市民参加による保全・活用が必要性が謳われていることです。これを踏まえて、今後計画が進行してゆく段階から多くの市民が関心を寄せ、意見を述べてゆく必要があると感じました。

かねてより問題点を改善するように県に対して要望していた、天下りや開発関係者が中心となった財団法人「埼玉県野生生物保護協会」設立の許可申請が取り下げられました。

中立性に疑念の大きい公益法人づくりは当面回避され望ましい結果となりましたが、当会を含む県下一〇六の保護団体連絡会としては、自己の企業利益が絡まない自然保護運動支援の財団設立ならば、大いに望むものであるとしています。

浅野正敏

四

月二十六日、守る会の総会が開かれ、その二部として「高尾山の自然をまもる市民の会」幹事の河村重行さんをお招きしました。河村さんは元高校の先生で、高尾山に関する著書もあります。この日は高尾山周辺の生態系や市民の運動の様子を生き生きと話して下さいました。

高尾山は落葉樹林と広葉樹林が共存する山で、一三〇〇種余もの植物が確認されています。その中には、高尾山の名を冠したものが七十種もあるとの事、また、昆虫は四五千種とも言われ、この自然の豊かさにより、都立公園、国立公園の指定を受けています。

しかし、この豊かな自然の宝庫、高尾山には、十三年前より、建設省と東京都によって圏央道建設計画が持ち上がっているのです。もしこの計画が実行されると、高尾山の山腹には、二つのトンネルと巨大なジャンクションが建設される事となり、生態系への計り知れない影響はもちろん、大気や水の汚染、残土の被害など、著しい自然破壊が予想されるとの事です。

河村さん達は、この計画の浮上以来粘り強く市民・都民へ計画反対を訴えてきました。建設省のアセスメントに対し、幅広い人材を集集して独自の自主アセスメントを作り、徹底した反論を行う傍ら、建設予定地内に五カ所ものトラスト地を確保しています。またシンポジウムや学習会、抗議行動、立木トラスト、署名運動、毎年恒例の大集会（二千人もの人が集まるとの事。今年は七月三十日）、更に会から市長候補を出す等々、考えられるあらゆる方法を用いて活動しています。

圏央道、豊かな自然、オオタカの営巣など、飯能との共通点も多い八王子での自然を守るための市民の力強い運動に、多くの事を学んだ一日でした。今後もぜひ交流を続け、お互い励まし合っていかれたらと感じました。

佐藤 弘

圏央道から
自然を守り続けて
13年...
『高尾山の自然を守る市民の会』のお話を伺いました。



自然と共に生きる

3

犬の散歩で見つけたもの

木崎久美子

人家も少なく水道もきていない様な山奥に住んでいられるおかげで、犬の散歩は放してしている。一年前から飼いだした犬と一緒に自然の中を歩いていると、不思議に思うことがある。

木々をゆらす風とか、水の音とか、意思表示をしている様にかがやいている星とか、夕焼けとか...。どうして、こんなにも心を穏やかにしてくれて、平和な気分にしてくれるのだろうか。夜空に輝く星を見て、みにくい心をいなく人は恐らくいないだろうから、自然の美しさやその存在に心が作用するのは、人間共通かも知れない。

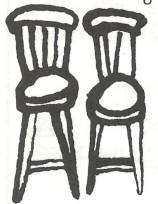
私はどうしても思ってしまう。そういう自然に心が作用するのは、遠い遠い昔、そういう自然たちと平等に暮らしていた時の記憶が遺伝子レベルでよみがえってくるのではないかと。だから、穏やかな平和な気分になるのではないかと。

散歩の時、犬が遊んでいる間、木や石の上にはばらく座っている事もある。ボーッとして色々な音を聞いていると（山の中でも色々な音がする）、一瞬、不思議な感じがする時がある。水の音も、鳥の声も風にゆれる木々の音も、全部ひとつになる時がある。そんな時は、なんとなく自分も一緒にひとつになった様な気がして、思わず「ありがとう」と心の中で思ってしまう。そして、全てのものは全てにとって不可欠なんだという思いがわき上がってくる。『そこにあるものは、そこにあるままに』が一番いい様に思えてくる。犬を飼ったおかげで、色々なものが見えてきた様な気がする。



月二回の例会の時間が 変わります。

◇第二週日よう日ふる里散歩の後、午後二時半より、原則として市民会館。◇第四週金曜夜七時半より織物会館。例会はどなたでも参加大歓迎です。ご自由にご参加下さい。



描いて、唄って、おいしかった、里山まわりの楽しい一日



豊かな自然を後世に残そう！と『第1回里山まつり』が5月4日、天覧入りホテルの里で開かれました。約200名が訪れ、1日をゆくり楽しむことができました。私たち『守る会』は4年目を迎え、何か市民に親しまれるイベントをという事で、何か月も前から企画・PRを行ってきました。当日は心配な雨も上がり、Tシャツに自然への思いを描いてもらい、約500枚が自然の中へ展示されました。午後からは、その中でネイチャーコンサートが開かれ、素晴らしい歌や演奏を聴くことができました。『とても良かった』『またやりたいね』という感想が多く、主催者としては感無量です。参加したみんなが精一杯がんばったからこそできたことで、ぜひ来年もやりたいと思っています。参加した皆さんにお願ひして寄せられた感想の一部をご紹介します。

里山まつりに寄せて

「しかし良かった、良かった。豚汁が残っていて。これだけを楽しみにしていたのだ……」（独り言です）。連休中という事もあり、川越〜日高線は大渋滞。わずか二十数キロの道程を三時間もかけて来てしまった。満腹のおなかを抱え、前方四十五度に傾いた大地のわくステージで唄っているうちに体のバランスをくずしそうになった、オットットット……。

しかし、気持ちがいい。開放的だ。これだから野外でのコンサートはやめられない。一人一人の顔が、どれも和んで見える。みんなこの天覧山・多峯主山が大好きなんだ。毛呂山から、生まれたばかりの一人息子を連れて、友人が駆けつけてくれた。「うまい空気を吸わせたくて……」その言葉に嘘は感じられない。皆の願いを白いTシャツに乗せてたなびかせている。もっともっと沢山の友達に、この身近な自然を感じて欲しい。そしてまるで他人事のように通り過ぎて行く人々に、声を大にして叫びたい。「今、私たちの里山が危ないんですよー！」と……。

フォークシンガー 熊谷誠二



草や木とのびき合

「Tシャツに絵……」の絵の一字で体が動いてワークショップのお手伝いをさせていただきました。デコボコシートの上で沢山の人たちが絵筆を走らせ、Tシャツメッセージが広がっていき様は、緑の中に、人間たちがせつせと巣作りに励んでいるようなほほえましさがありました。

絵には自分の内なるものが、どう外と関わろうとするのかがよく現れます。自然によりそう形、つかみとろうとする形、みつめている形。特に子どもたちの絵は、その関わりが等身大でまっすぐで、まわりの草や木と即座にひびき合って生きていくので、すごいなあと思いました。

私はこんな場所にるのが大好きです。感じて表現したことがそのまま活きているのを見ると元気が出てきます。ありがとうございました。

早く帰れたかった。オレにはやりた
いことがある。
ぜーんぶとても良かった。
その長女
楽しかった。
その長男
まえよりもずっと草がのびた。
その二男



共生への第一歩に

言葉や声での主張より、もっと強い自然からのメッセージを沢山のひとと共有できた事に、非常に親しみを感しました。また、私達共有の資産ともいえる自然を、恒久的な、共生する友人と願う一人として、森は残すべきだと考えます。 高橋裕二



鎮守の神をよびて

里山まつりを終えて「またやりましょう」と多くの方から声が出た。そして私も、次にはどんな祭りがいいだろうと考えさせられました。

「村の鎮守の神様の、今日は楽しい大祭り、朝から聞こえる笛、太鼓の歌を思い出し、そんなお祭りを私達の手で再び興せたら良いと思った。」

山には鎮守の神様が、今もいらっしやるかもしれないが、私は凡夫であれば知る由もない。しかし、私達の心の中に鎮守の神様を再発見できれば、山を消してしまおうなどは、夢思わなくなるだろう。 早瀬成憲

天覧山 多峯主山の 四季 梅雨空の号

午前四時を過ぎる頃、うっすらと辺りも明るくなり、淡く霧に包まれながら多峯主山が姿をみせています。

麓の林からはヨタカやホトトギス、クロツグミ、キビタキ、アオバト、サンコウチョウへと、夏鳥たちのコーラスは種類を変えながら途切れることなく響きわたります。

夏鳥の声に混ざって東の尾根からは「ビャー、キャ、キャ、キャッ」とオオタカの警戒する声も聞こえてきました。一昨年に人為的に巣が壊された、古巣の辺りでしょうか。

この場所では今年春に、古巣の上空を番いによる求愛のディスプレイ飛行や、谷からは雌雄の鳴き交わしが盛んに聞かれていました。しかし、ヤマザクラの花も終わり、フジの花が咲く季節になっても一向に営巣の気配はなく、遅くまで古巣周辺をペアで巡回する姿

が目撃され、今年も繁殖は危惧されています。

午前八時を過ぎ、辺りが明るさを増し気温も上がり始めると、多峯主山の山頂は昆虫たちで活気に満ちます。黒く大きなクマバチもその一つです。クマバチは山頂の開けた空間に縄張りをつくり、一点に空中停止しながら他の個体が来ると追い払います。縄張りをもって飛ぶのは雄だけで、じっくりとハチの顔を見ると鼻の部分が黄色く雄であることが分ります。雄は針を持つておらず刺しません。会う機会があれば、ゆっくり顔を覗いて見て下さい。

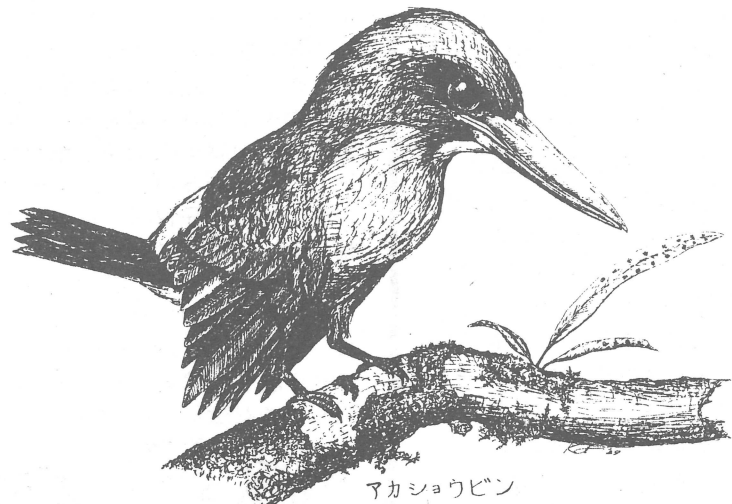
梅雨空の合間から薄日が射しはじめると、待っていたかのように蝶たちが飛び始めます。山頂を行き来する黒いアゲハはクロアゲハ、黒地に青味が入るカラスアゲハ、黒地にクリーム色の紋はモンキアゲハ。灰色で羽の内側が青緑の光沢のあるオオミドリシジミ、白黒の鹿子模様ゴマダラチョウも姿をみせました。

山頂の地面すれすれを素早く飛ぶ大型のトンボも動き始めました。オオヤマトンボです。オニヤンマに似た黄色と黒の模様と胴体は緑色の金属光沢を放っています。オオヤマトンボは暫く山頂を行き来して日射しが隠れると近くの木々の枝に止り、次の日射しが来るのをじっと待ちます。日射しによって温まった体で活動する、小さな昆虫の動きに合わせて餌取りをしているの

でしょうか。

午後になると多峯主山を包む梅雨空が今にも泣き出しそうな気配になり、生きものの姿も少なくなってきたので山を下りにしました。

文・イラスト／市川和男
（財）日本生態系協会・研究員



マカショウビン

日よう日 ふる里散歩の お知らせ



夏から秋にかけての、『ふる里散歩』の企画です。ホテルの観察会に始まり、早起きしたり、川の中を歩いたり、楽しさいっぱいです。お友達も誘ってご参加下さい。

◇『ひかり舞うホテルの里へ』の巻
六月二十七日(土)・二十八日(日)
ホテルの観察会
午後六時半 能仁寺山門前集合

七月四日(土)
ホテルの観察会とオカリナコンサート
午後六時半 能仁寺山門前集合

七月五日(日)
ホテルとコウモリの室内学習会と観察会
午後六時 飯能市民会館二階集合

◇『朝の林に蝉時雨を浴びて』の巻
八月九日(日)
朝五時 能仁寺山門前集合

◇『水辺は自然の浄水器』の巻
九月十三日(日)
午前九時半 能仁寺山門前集合
持ち物・弁当・水の中を歩ける靴

*参加費・各回保険料一〇〇円
*共催・はんのう景観トラスト・(財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部